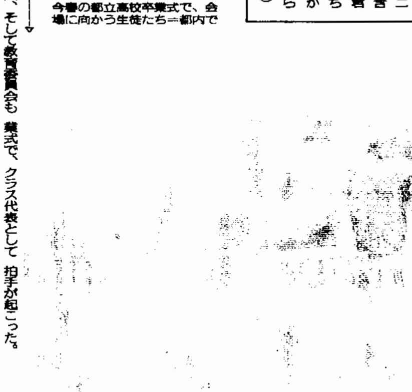
東京新聞 2005.5.29 (第3種郵便物認可)

「日の丸・君が代」強制 都立高生・OBの思い

今春の東京都公立学校の入学式で「君が代」斉唱時に起立しなかったなどとして都教委が二十七日、中高教員に対し異例の停職一カ月を含む懲戒処分を発令した。度重なる「日の丸・君が代」強制に絡む教職員の処分は、子どもたちが自分自身で考える力を奪うことにつながりかねない。都立高校の卒業生と在校生に生徒から見た学校の現状を語ってもらった。（松井学）

「先生をいじめる」皆の気持ちだった



今春の都立高校卒業式で、会場に向かう生徒たち＝都内で

――いま卒業式・入学式の時期を迎えると学校が緊張すると聞きます。生徒への国歌斉唱の指導が「職務命令」として先生たちに義務づけられたことで、生徒が起立しなければ担任の教員が処分される事態にもなりました。学校で何が起きているのか、皆さんの学校では今春、どんな卒業式だったのでしょう。

明治大学一年、永沼拓海さん(一九)＝都立戸山高校卒＝「生徒有志による卒業式委員会で前年の六月から準備を重ねました。卒業生、在校生、先生、保護者、OB会、そして教育委員会も含めて「戸山」にかかわるすべての人が、新たなスタートラインに立てるような思い出深い式にしたかった」

永沼さんは今年三月の卒業式で、クラス代表として卒業証書を校長から受け取るとフロアに向かい「都教委の方にお願いがあります。もうこれ以上、先生たちをいじめないでほしい」と話した。会場から大きな拍手が起こった。

「生徒の意見もさまざまで、日の丸・君が代一つとっても、たたえて当然だという人もいるし、愛国心の押しつけは怖いという人、とりあえず先生が処分されないよう穏便にやるべきだという人がいる。でも、先生たちが苦しんでいるのを避けたいという感覚は皆が持っていたから」

「歌うのは自分の意思で」

卒業生代表の一人として言葉を述べた早稲田大学一年、佐藤貴之さん(一九)＝同＝「卒業生の言葉を述べる時に、僕は『自分は天皇を人格者として尊敬し君が代も歌った。だけど、この強制はおかしい』と話しました。歌うのは自由意思でなければと思って。(人々の日常的な怠慢や自己保身、他者への無関心が全体主義につながるという)『茶色の朝』の物語を引用し、それからでは遅いんだと訴えた」

「内心の自由」通達で変わった

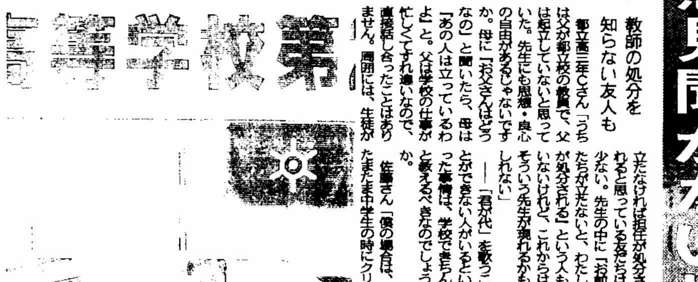
――かつては、起立、斉唱するかどうかは内心の自由の問題であることを多くの学校が説明していました。二〇〇三年秋に都教委が通達(国旗・国歌の実施指針)を出すまでの話です。

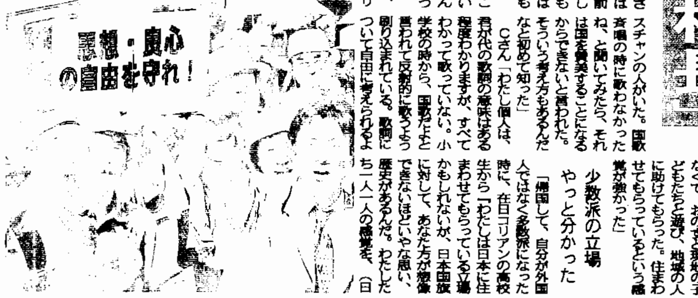
都立高三年Nさん「一年前の入学後、学校の周年行事で先生が『家庭がキリスト教信者であるといった事情がある場合は、内心の自由があるので立って歌わなくてもいい』と説明された。わたしは、高校生になったら中学時代と違って詳しく説明してくれるのかなと思いました。その後、二年生の現代社会の授業で先生が(不起立処分の方針を示した)都教委の通達を見せてくれ、事態が変わったと知った。先生は意見を押しつけなかったけど、日本が平和を目指すのであれば、アジアの国に昔の軍国主義を連想させる君が代を強制的に歌わせるのはおかしいなと感じた。わたしたちはイラク戦争も目の当たりにしたし」

日の丸・君が代強制の経緯

03年10月23日	都教委が通達で入学式、卒業式等での「国旗・国歌の実施指針」を示す
04年春	卒業式、入学式等で国歌斉唱時に不起立だったなどの理由で教員ら243人が戒告や減給処分に。定年後の再雇用取り消しによる「解雇」も9人
04年5月	生徒の起立状況に応じて教員ら67人を厳重注意等に
04年8月	被処分者に対する服務事故再発防止研修
04年9月	校長連絡会で、生徒に対する国歌斉唱の指導を職務命令として教員らに義務づけるよう指示
05年3月	卒業式の「不起立」を理由に53人を処分
05年5月	入学式での処分で「通達」以降、初の停職処分も

「自分で考えろ」はウソなの？





①都立高卒業式で壇上正面に掲げられた日の丸と都旗
②処分を受けた教員の研修会場前で抗議する支援者ら＝いずれも都内で

話題の発掘

「大切な話は伝えず意見聞かない校長」

教師の処分を知らない友人も

都立高三年Cさん「うちは父が都立校の教員で、父は起立していないと思っていた。先生にも思想・良心の自由があるじゃないですか。母に『お父さんはどうなの』と聞いたら、母は『あの人は立っているわよ』と。父は学校の仕事が忙しくてすれ違いなので、直接話し合ったことはありません。周囲には、生徒が立たなければ担任が処分されると思っている友だちは少ない。先生の中に『お前たちが立たないと、わたしが処分される』という人もいないけれど、これからはそういう先生が現れるかもしれない」

――「君が代」を歌うことができない人がいるといった事情は、学校できちんと教えるべきなのでしょうか。

佐藤さん「僕の場合は、たまたま中学生の時にクリスチャンの人がいた。国歌斉唱の時に歌わなかったね、と聞いてみたら、それは国を賛美することになるからできないと言われた。そういう考え方もあるんだなと初めて知った」

Cさん「わたし個人は、君が代の歌詞の意味はある程度わかりますが、すべてわかって歌っていない。小学校の時から、国歌だよと言われて反射的に歌うよう刷り込まれている。歌詞について自由に考えられるようにするためにも、小学校上級生ぐらいになったら意味を教えてほしい」

永沼さん「小学校二年生から中学一年生まで上海で暮らしました。当時、日本人駐在員の家族は今より少なくて、おのずと現地の子どもたちと遊び、地域の人に助けてもらった。住まわせてもらっているという感覚が強かった」

少数派の立場やっと分かった

「帰国して、自分が外国人ではなく多数派になった時に、在日コリアンの高校生から『わたしは日本に住まわせてもらっている立場かもしれないが、日本国旗に対して、あなた方が想像できないほどいやな思い、歴史があるんだ。わたしたち一人一人の感覚を、(日の丸・君が代強制をはじめ)あなた方の国の方針でつぶさないでほしい』と言われた。少数派の人たちに、住まわせてもらっていると思いなさいよ、自分たちの国の方針にのっかりなさいよというのは間違っているのかなと、その時思った。強制されている人たちのつらさがすごくわかった」

――今春の卒業式では、「式の主役は子どもたち」との保護者の呼びかけがありました。日の丸・君が代の強制は「個性を伸ばす」という教育行政の常とう句に反しているように映ります。

Nさん「校長先生は『何かあったら言いに来てほしい』と言うくせに、実際は授業を前期・後期の二期制に移行させたりといった大事な話はすべて決まってから生徒に伝える。意見は聞いてもらえない。生徒がいなければ、学校は成り立たないはずなのに」

永沼さん「都教委の通達は国旗と都旗を式典会場の正面に掲げると示しているけど、僕たちはその真ん中に校章をデザインした学校の旗を掲げたいと考えて校長先生と交渉しました。

生徒がいて学校がある「言ってもムダ」風潮怖い

高校生活三年間の部活動や行事、先生や友だち、その思い出を象徴する旗です。ところが、校長は『卒業式は文化祭や運動会とまったく違う式典だ。そもそも、どうしてそんなに旗にこだわるのか』と説明するだけで認めてくれない。校長先生が自分でそう思っているのか、東京都に言わされている立場なのか。腹を割って話したいのに答えてくれなかった」

Cさん「日本は米国などと違って、上から押さえつけられると押し黙ってしまう国民性がある。学校でも社会でも、言っても無駄だと思う世の中になることは心配です」

佐藤さん「高校生活では、まず自分で考えろという僕たちにとっては良い先生が多かった。ところが、いまは教育行政が示す枠を生徒が超えちゃいけないという『教育』がどんどん学校に押し寄せています」

デスクメモ

管理教育で有名な愛知県で育ったが、中学時代は「日の丸・君が代」は当たり前で「服従の生活」なる今から思えば教育勅語みたいな標語まであった。都教委の時代錯誤的な強制や処分乱発は、声高に叫ばれる分非常に分かりやすい。生徒たちには世の中に出る前の格好の教材として「自分で考えて」ほしい。（蒲）